

京都鞍馬口医療センター地域連絡協議会 議事概要

日 時 平成 30 年 12 月 20 日 (木) 14 : 30 ~ 15 : 20
場 所 5 階講堂
議 題 1.院長挨拶
2.当院における地域医療連携の現状について
3.京都鞍馬口医療センターへの意見及び要望について
4.その他

出席者 ・ 地域連絡協議会委員 (敬称略)

京都府北医師会会長	田村耕一
京都府北医師会医師	安藤貴志
京都府北医師会医師	鍵本伸仁
京都府北医師会医師	武田諭司
京都府北医師会医師	中村智恵
京都府北医師会医師	余みんてつ
京都府北医師会医師	渡辺康介
京都府北医師会医師	事務局 1 名
・ 京都鞍馬口医療センター委員	
院長	島崎千尋
副院長	村頭 智
事務部長	林 卓男
看護部長	岩下真美
医事課長補佐	信澤一博
地域医療連携室事務員	西村美香
・ 庶務	
総務企画課長	白倉直樹

会議内容

1.院長挨拶

いつも当院の運営に際しましては、いろいろとご協力を賜り感謝しております。超高齢化社会の中で、また地域包括ケア構想が叫ばれている中で地域の先生方と病院との連携は、今後非常に重要となってまいります。本日は、忌憚のないご意見をいただければと思っております。

2.当院における地域医療連携の現状について

島崎院長より、プロジェクターにて説明

3.京都鞍馬口医療センターへの意見及び要望について

(田村) レスパイト入院について、もう少し詳しく教えていただきたい。

(院長) 入院については、2週間を基本として受け入れている。特に年末年始や盆の期間は入院の要望が多い。

(田村) 認知の程度について何か制限はあるのか。

(院長) 特に制限はしていない。しかし、認知が高度の場合には、受け入れはむずかしいと思われる。やはり家族の付き添いが必要となる。

(田村) それではレスパイト入院にはならない。

レスパイト入院専用の病棟はあるのか。

(看護部長) 専用の病棟はない。入院していただく病棟は地域包括ケア病棟となる。病床数34床、現在稼働率は85%前後。看護配置は夜間は2名体制となるため、高度な認知の方については看護が手薄になる時間帯があるかもしれない。入院前に患者情報をいただければ、対応させていただく。

(田村) 個室等の料金はいくらであるか。

(看護部長) 個室については1日11,000円となる。

(院長) 個室のほかに4人部屋があり、1日1,500円の特別家具使用料等の部屋と無料の部屋を用意している。

(鍵本) 在宅医療から急性期医療への受け入れの場合、動かせない患者を無理して検査に病院へ受診させても、また自宅へは帰せない。そのような場合には、入院目的でお願いしたい。入院適用がなければ、外来診療のみで自宅に帰されることが多い。家族は途方に暮れてしまう。そのようなことが続くと、どうしても京都鞍馬口医療センター以外の病院に頼まざるを得ない。ご検討いただけないか。

(院長) 直接入院は受け入れている。

(鍵本) 入院目的で検査等をお願いしても、「一旦来ていただいて、入院適用があれば入院させてもらう」という返答となるため、今まで入院を無理に頼める病院に依頼していた。今後はよろしく申し上げます。

(武田) 現在、B6病棟を閉鎖していると思いますが、B6病棟の今後の予定と病院としての今後の訪問診療の予定をお聞かせいただきたい。

(院長) B6病棟を休床しているわけですが、現実的には再開はむずかしいと考える。看護師の問題がある。看護師数が不足している。在宅診療については現在のところ、検討はしていない。急性期医療中心にと考えている。

(中村) レスパイト入院の場合、認知の程度は問わないということですが、ショートステイでは介護士がおられる。しかし、病院では介助や排泄等の介護サービスはない。それで

はADLがおちるのではないか。そうならば、ショートステイに頼らざるを得なくなる。介護の面について何かサポートは考えておられるか。

(看護部長)生活レベルのリハビリは看護師でも可能。理学療法士とも相談が必要にはなるが。

(余) 地下鉄、バスなどの交通の便を考えると京都鞍馬口医療センターが良いという患者は多い。最近、紹介に対する断りも少なくたいへん助かっている。機構が変わり、それに伴い医師も変わってきた。そのために病院の特色がぼやけてしまったように感じる。病院の売りをお聞かせいただきたい。

(院長) 医師の異動については、機構が変わったことが理由ではなく、京都府立医科大学の人事の関係での異動である。どうしても医師の異動でキャパシティがおちてしまう。その点についてはご迷惑をおかけしています。

医師によりそれぞれの専門分野があり、その専門分野をのばしてはいきたいと考えている。

(安藤) 来年にMR I のバージョンアップを予定されているとのことだが、バージョンアップ工事前後のMR I 検査枠の増設の予定はあるか。

(院長) 特に予定はしていない。

(安藤) 枠を広げていただけるのか。また、工事期間の対策を教えてください。

(院長) 枠の増設については、むずかしいと思われる。

(安藤) 入院目的で紹介しても、入院できるかどうかわからない、という点はやはりある。これは前回のこの会で議案にあがったこと。

(院長) 前回でも、認知症患者や圧迫骨折患者の受け入れの件はお聞きしている。その後、毎月曜日に物忘れ外来を設置し、神経内科も週2回から週3回へと増やした。次年度もさらに増やす予定である。高度の認知症については今後少しずつ検討していきたい。

(安藤) 地域医療連携室の増員や看護師の配置の件も議案にあがったと思うが。

(院長) 看護師の配置についてはとても重要であると認識しているが、看護師の人員不足のため配置できていない。看護師にまだ余裕がない状態。

(安藤) 時間外で患者を紹介する場合、事務員と医師との連携がスムーズにっていないのではないかと感じる。①返答に時間がかかる ②事務員に話をしてもなかなか理解してもらえない。もっとスピーディーにお願いしたい。

(院長) そのとおりです。検討したい。

(鍵本) 京都市からも、災害対策について計画するようにと通達があったと思う。京都鞍馬口医療センターではどのように考えておられるか。

(院長) B C Pについてもこれから策定するところ。

(鍵本) 京都北医師会でも検討し始めたところであるが、北区でできること、どこから情報を得るのか、等プラン中である。そこで京都鞍馬口医療センターの位置づけも踏まえて、今後いっしょに考えていきたい。

(院長) たいへん貴重なご意見ありがとうございます。当院も職員に災害意識を高めるために研修等も考えている。またBCP策定もとりかかったところ。地域での役割等も検討していきたい。その際には、いろいろなご意見をよろしくお願いします。

(安藤) この会の議事録は作成されていますか。

(院長) 作成している。

(安藤) その議事録もいただければと思います。

(院長) お配りします。

4.閉会の挨拶

(鍵本) 田村会長に代わりご挨拶申し上げます。

今回で3回目となりますが、過去2回に参加された先生からの声です。

「もっと腹を割って言い合える会であってもよいのではないか」という声もありました。京都鞍馬口医療センターを頼りにしています。今後はもっと深い話もしていきたい。北医師会と京都鞍馬口医療センターとで地域医療を作り上げていきたい。

(田村) 現在、地域医療構想調整会議や医師の働き方改革等いろいろあると思うが、在宅の患者も増加し開業医は困るところも多々ある。そこで、お願いできる病院とできない病院に分かれる。京都鞍馬口医療センターには是非お願いできる病院であってほしい。

(渡辺) とても頼りにしている。

(院長) 腹を割って言い合える会になるよう努力したい。また、当院は上京東部医師会に所属しているため、北医師会の先生方とこのように話し合える機会が少なく、今後も遠慮なくご意見をいただきたいと思います。

本日は、たいへんお忙しいところお集まりいただきありがとうございました。